

# 歴史的な見方・考え方を働かせて課題を追究できる生徒の育成

～歴史的な事象を大きなまとまりとして捉えるための単元構想と「キーワード」に着目する学習指導の工夫を通して～

平成30年度 前橋長期研修研究員 伊藤 直之

## 研究の概要

### 主題設定の理由

#### 「平成29年告示 中学校学習指導要領」

「生きる力」を育むために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）」を働かせる授業改善を目指す。

#### 【県】「学校教育の指針」

比較したり関連付けたりするなど、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会的な事象を捉える。

#### 【市】「平成30年度 まえばし学校教育充実指針」

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を推進する。

#### 「平成30年度 各教科等指導の努力点」

社会的な見方や考え方を育み、学びを実感できる指導の工夫をする。

### 研究構想図

#### 目指す生徒像

「キーワード」に着目し「歴史的な見方・考え方」を働かせ、複数の歴史的な事象を大きなまとまりとして捉えて自分なりの考えをもち、自分の言葉で表現できる生徒

#### 【手立て2】

歴史的な事象を大きなまとまりとして捉え、「キーワード」に着目して考察する学習指導を工夫する。

#### 【手立て1】

「単位の課題」について「単元の課題」とのつながりを意識しながら考えることができる単元を構想し、複数の歴史的な事象を大きなまとまりとして捉えるための単元計画を作成するとともに、学習指導の見直しをもつ。

#### 生徒の実態

- 社会的な事象を単独の知識として覚えなければいけないと考え関心が低い。
- 歴史的な事象同士のつながりを考えるのが苦手。

#### 教師の課題

- 生徒が関心をもって取り組める課題づくりが不十分である。
- 「見方・考え方」を働かせて考察させる授業が構想できていない。

## 基本的な考え方

「歴史的な見方・考え方」と「多様な視点」「追究の方法」

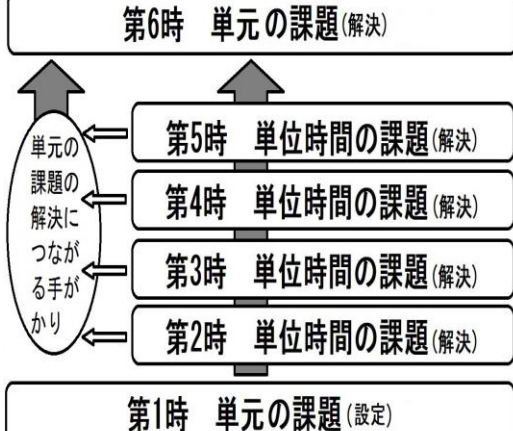
手立て1 歴史的な事象を大きなまとまりとして捉えるための単元の構想

手立て2 「キーワード」に着目する学習指導

### 歴史的な見方・考え方

### 視点や方法（考え方）

- 多様な視点の例
- 時系列：時期、年代、時代区分など
  - 推移：変化、発展、転換など
  - 比較：相違、共通性、特色など
  - 相互関係：背景、因果、結果、影響など
- 追究の方法
- 様子やしぐまを捉える
  - 特色を考える
  - 意味を考える
  - など



「各時代の特色を明らかにしたうえで我が国の歴史を大きく捉える」（次期学習指導要領解説社会編）

複数の歴史的な事象を大きなまとまりとして捉え、特色などを考察し掘むための授業改善が必要

大きなまとまりとして捉えるために、歴史的な事象の共通の側面を掘む

「キーワード」

- ・教師が構想の中で設定
- ・生徒が課題追究の中で発見

同一でなくてもよい

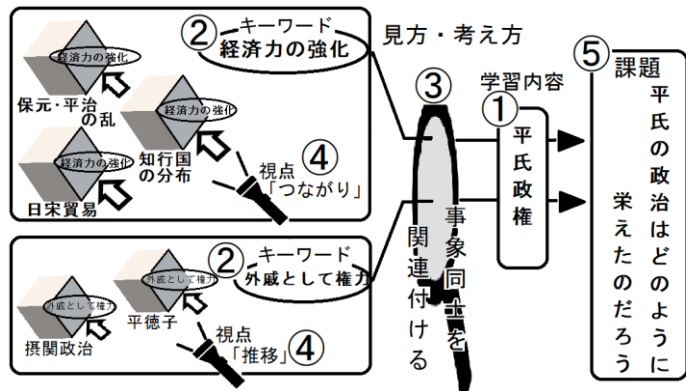
「キーワード」を用いて歴史的な事象を関連付けて考察できるように支援

自分なりの考えをもち、自分の言葉で表現

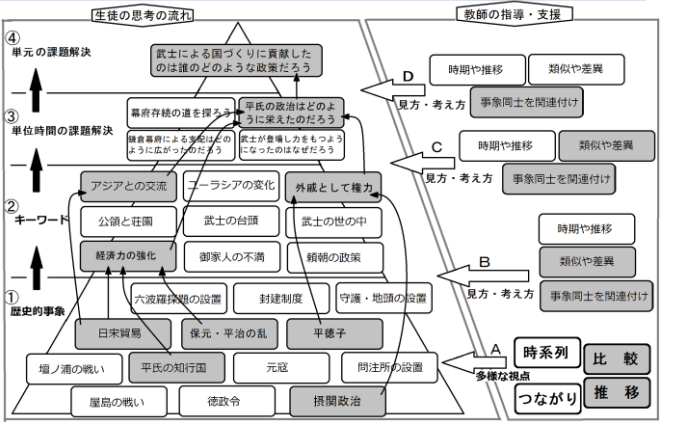
### 教師の「単位の課題」設定の手順（①～⑤）

「武家政治の成立とユーラシアの交流」

3/6時の例



### 単元の課題解決に向かう生徒の思考の流れと教師の指導・支援のタイミング 3/6時の例





# 手立て2 「キーワード」に着目して考察するための学習指導の工夫

生徒が「単元の課題」や「単位時間の課題」に取り組む際、考察を進めるために「キーワード」を活用する。そのために、課題を解決するプロセスの各段階で指導の工夫を行い、生徒が課題解決の経験を積み重ねることで、歴史的な見方・考え方を働かせて課題を解決することができるようになることを考えた。

## 課題を解決するプロセスとワークシートの活用

学習過程	段階	課題を解決する5つのプロセス
つかむ	第一段階	<b>課題の把握</b> 既習事項等の資料を基に「単位時間の課題」を把握する。
追究する	第二段階	<b>「キーワード」の発見</b> 多様な視点を活用して資料から「キーワード」を見出す。この考察を繰り返すことで、「単位時間の課題」の考察に必要な複数の「キーワード」を導き出す。
	第三段階	<b>個人の考察</b> 「キーワード」同士を「歴史的な見方・考え方」を用いて結び付け、課題について考察する。その際に、根拠を明確にすることで、歴史的事象を基にした考察とする。
	第四段階	<b>意見交流</b> 個人で考察したものを生徒同士で交流する。個での考察から集団での考察を行うことで、自分の考えを明確にしたり、交流の中で考察を深める。
まとめる	第五段階	<b>考察の深化</b> 交流の中で新たに気付いたことを自分の考察に取り込み、考察を深める。交流を踏まえて個人で考察する時間を設定することで、考えを広げる。

プロセスに対応したワークシートを作成し活用

社会科ワークシート 「武士の政権の成立」  
教科書 P.68～69 1年\_組\_番 氏名\_\_\_\_\_

単元の課題 武士による国づくりに貢献したのは誰のどのような政策だろう

本時の課題 **第一段階 (課題の把握)**

【つながり】 【比較】

**第二段階 (キーワードの発見)**

自分の考え **第三段階 (個人の考察)**

友達の見解から 他クラスの意見から **第四段階 (意見交流)**

各班の発表を聞いての自分の考え **第五段階 (考察の深化)**

## 実践例(3/6) 課題 「平氏の政治はどのように栄えたのだろう」

### 第一段階 課題の把握

平氏にあらす  
んば人にあらす  
(平家物語)

- 1118 平清盛生まれる
- 1156 保元の乱 (平氏 後白河天皇方に)
- 1159 平治の乱 (平氏 源氏を破る)
- 1167 平清盛 太政大臣となる
- 1172 清盛の娘(徳子)が高倉天皇の后になる
- 1179 清盛が後白河上皇の院政を停止する
- 1180 清盛の孫の安徳天皇が即位する
- 源氏などが兵を挙げる
- 1181 清盛65歳で亡くなる
- 1185 壇ノ浦で平氏が滅ぶ

平氏政権が続いた理由を見付けようと、身を乗り出して資料に集中する生徒

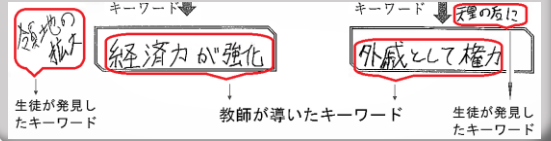


### 第二段階 キーワードの発見



日本全国はわずかに66か国。そのうち平氏が支配する国は30余国で、すでに半数を占めている。そのほか、**荘園や田畑は数えきれないほど所有している。**(平家物語)

質問例を活用した教師の問いから資料を基にキーワードを発見する



### 第三段階 個人の考察

「キーワード」を用いて歴史的事象を関連付けて考察できるように支援

「キーワード」を上手に活用して考えるといいですね

キーワードに着目した考察

自分の考え: 戦いに勝つと**経済力が強化し**、**外戚として権力を握った**

キーワードを活用して考察

使う順番は? どのような関係?

### 第四段階 意見交流

交流を通して自分の考えを深める

「自分の考察の中に取り入れたい言葉」はありますか?



なぜ取り入れたいと思ったのだろうか? 気付かなかった考えはあるかな?

小グループでの交流、学級での交流、教師の働きかけによる気づき

他クラスの意見から: 平氏は**領地の拡大や貿易**により、**経済力が強化された**。また、**その力で摂関政治の時代外戚として権力を握った**

交流による気づき

### 第五段階 考察の深化

交流の結果を取り入れながら「キーワード」を中心に考えを深める事ができるよう、全体に発問するとともに個別に支援

今の発表を参考に、もう一度自分で考えてみましょう



自分の考察のどこに気づきを加えたいのだろうか?

交流による気づきを取り入れた考察: 平氏は**領地の拡大や貿易**により、**経済力が強化された**。また、**その力で摂関政治の時代外戚として権力を握った**

「キーワード」を活用したり、交流による気づきを生かして考察し、平氏の政治が栄えた様子について考察を深めることができた。

# 研究のまとめ

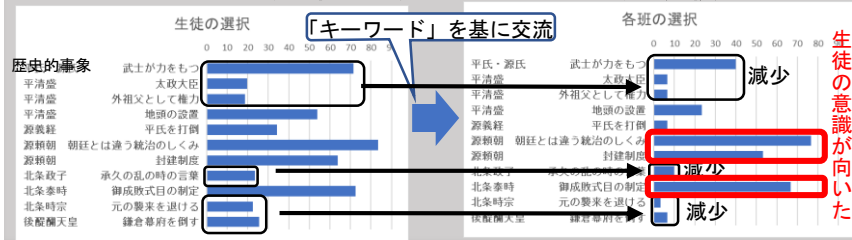
## 成果

### 手立て1：複数の歴史的事象を大きなまとまりとして捉えるための単元構想について

時代の転換の様子や時代の特色を捉える姿が見られた

- 第6時で、生徒は課題に対し、個人で考える際の歴史的事象の選択では、多少ばらけてはいるものの「武士が登場する様子」「しくみやきまりがつくられていく様子」が分かる歴史的事象を選択している。その後のグループでの活動を経ると、「しくみやきまりがつくられていく様子」が分かる歴史的事象を選択し課題の解決に取り組めた。

#### 国づくりを考察する際に必要となる歴史的事象の選択



生徒の意識が「しくみがつくられていく様子」や「きまりがつくられていく様子」が分かる歴史的事象にむけられた。国づくりに必要な歴史的事象を複数選び、貴族の世から武士の世への転換の様子を大きく捉えることができた。

- ワークシートの記述や生徒の感想から、複数の歴史的事象を大きなまとまりとして捉える意識をもったことが分かる。また、「国づくり」を考察する際に共通する視点について気付く様子も見られる。

#### 授業後の生徒の感想

「今の視点を探そう。選んだことで、その物事の流れがわかるようになった。また、様々な年代の歴史を聞き、改めて自分の考えを明らかにすることで、いろいろな視点を広げた。色々な人物の色々な政策、気持のこともよく理解し、改めて、それが、その時代、同じような、時期、時期を見ることが、納得、納得する上で最大のポイントというところがあった。」

各時代で共通する視点の気付き

#### 第6時のワークシート

班で考えた根拠（ランキングの理由）

源頼朝が「朝廷とは違う統治のしくみ」を作り、権威の継承関係を結んで、北条泰時が「御成敗式目の制定」を促したことで、武士による統治のしくみが整ったから。

国づくりに必要な各時代に共通する視点の気付き

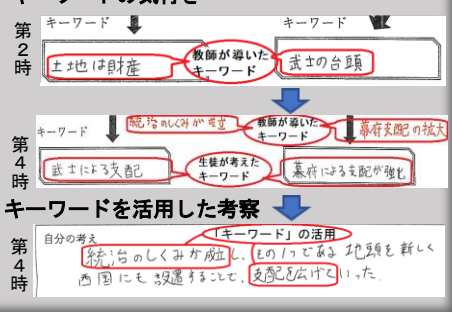
上記の結果から、生徒は時代の転換の様子を的確に掴んで表現しており、歴史的事象を大きなまとまりとして捉えることができたと考えられる。

### 手立て2：「キーワード」に着目して考察するための学習指導の工夫について

「キーワード」に気付き、これを用いて考察を進める姿が見られた

- 「キーワード」に気付き、複数の「キーワード」をつなぎ合わせることで、事象同士を因果関係などで関連付け、課題の解決に向けて活用できる生徒が多くなった。
- 実践後に実施したアンケート結果を見ると多くの生徒が「キーワード」を活用して自分の考えをもつことができた。

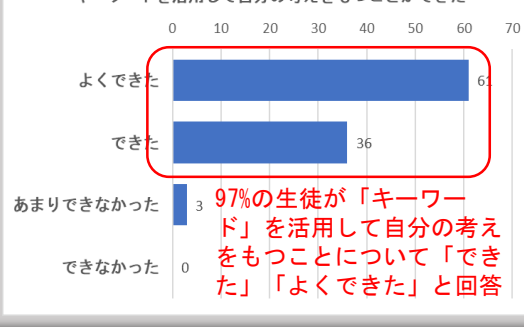
#### キーワードの気付き



生徒が自分で「キーワード」を考えることができるようになった。

キーワードを活用して考察することができた。

#### キーワードを活用して自分の考えをもつことができた



上記の結果から、学習のプロセスや資料の提示、発問の工夫を行ったことで、生徒は「キーワード」に気付くことができた。そして「キーワード」に着目して意見交流を踏まえて考察することで、自分の考えを深め、自分の言葉で表現できるようになっている。これらから、「キーワード」に着目して考察する学習指導の工夫は有効であったと考えられる。

これらの結果から、生徒は歴史的な見方・考え方を働かせ、複数の歴史的事象を大きなまとまりとして捉えて自分なりの考えをもち、自分の言葉で表現することができたことと分析した。従って、本研究主題である「歴史的な見方・考え方を働かせて課題を追究できる生徒」を育成できたと考えられる。

## 課題

今回の実践では「複数の歴史的事象を大きなまとまりとして捉える」ため、単元の再構成を行ってきた。歴史的事象を大きなまとまりとして捉えるためには一つ一つの歴史的事象についての知識も必要であると考えられる。そこで、今後は、「複数の歴史的事象を大きなまとまりとして捉える」ことを伸ばしつつ、「知識」の習熟と活用のバランスを取りながら単元の指導計画を作成していくことが必要だと考える。